

(4) 令和4年度 八代市立高田小学校 校内研修計画

1 研修のねらい

校内研修を通して、教育力の向上や今日的課題に対応できる教師としての資質の向上を図る。

- (1) 今日的課題に対応するための研究
 - (2) 教師の授業力の向上に関する研究
 - (3) 今日的課題に対応するための修養
- テーマ研: 学力充実に関する研究
- 現職研修: 人権教育、特別支援教育等

2 テーマ研究について

(1) 研究主題

「確かな学力を身につけた児童の育成」

～主体的・対話的で深い学びを通して～

(2) 主題について

「確かな学力」とは、「生きて働く知識・技能」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力」

「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等」の3つのバランスのとれた力だと考える。

確かな学力を育成しようとする時、言葉を適切に理解し表現する力は、学習活動の基盤となるものである。また、バランスのとれた「確かな学力」を育成するためには、児童自身が学ぶ意義や何を学んだのかを自覚し、他人や教材と向き合い対話する中で学びを深めていくことが必要である。「何を学ぶのか」それを身につけるためには「どのように学ぶのか」について焦点をあて研究をすすめていく。しかし現在、新型コロナウイルス感染症の流行によりソーシャルディスタンスの必要性が叫ばれている。このような状況の中、どのようにして考えを交流させていくのか、工夫しながら取り組んでいきたい。

(3) 主題設定の理由

ア 今日の課題から

近年、知識・情報・技術をめぐる変化が加速し、Society5.0 に代表されるような情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて進展してきている。また、現在世界中が混乱の中にある新型コロナウイルス感染症や自然災害の発生など、多くの課題も抱えている。そのような社会の中で、人間らしい感性を働かせながら多くの人とかかわり、よりよい社会と幸福な人生を自らの手でつくっていくの重要性はさらに増していだろう。このような背景から、児童自身が学ぶ意味を見だし、様々な人との対話を通して学びを深めていくことをめざした本研究は、これからの社会を生きる子どもたちを育てるにあたって意義深いものと考えている。

イ 本校の教育目標から

本校の教育目標は、「夢を持ち 主体的に学び、考え行動する高田っ子の育成」である。本研究では、授業改善と学習習慣の工夫を通して、主体的に学び深く考えることができる「確かな学力」、互いの考えを理解し伝え合おうとしたり、新たな考えを学んだりする中で育まれる「豊かな人間性・社会性」、あきらめずに、粘り強く最後までやり抜く心の育成の「たくましい心と体」を身につけていくことをねらいとしており、学校教育目標の具現化に寄与できると考える。

ウ 本校の実態から

本校は、昨年度まで一単位時間(あるいは一単元)の授業改善に焦点を当て、めあてとまとめの整合性、対話を通じた深い学びの在り方、振り返りなどの観点から授業づくりを通じた学力向上と小中連携した

「家庭学習の手引き」を作成して、家庭での学習週間の確立を目指した取組を進めてきた。昨年度の県学力調査においては正答率が標準を上回っている学年に差があり、標準学力検査の結果においても、全国平均の50を下回った学年があるなど、学年差が大きいことが課題に上がった。また、i-checkの結果からは「学級の規範意識」「学習習慣」「充実感と向上心」の項目がどの学年においても低い傾向がみられ、日常の様子からも、時と場に応じた言葉づかいや自分の考えを自信をもって伝える力、自分と相手の考えを関連させる思考力等に課題があった。そこで、本年度は、昨年度の研究主題を引き継ぎつつ、授業改善と学習習慣づくりを重点的に取り組むこととした。授業改善については、児童の学習に対する意欲の向上や充実感を持たせるための方法の一つとして、ICTを効果的に活用していくようにし、主体的で意欲的な児童の学びの姿をめざしていくものとした。

(4) 研究の内容

(ア) 研究の仮説について

仮説1：基礎的基本的な学習内容の定着と学習規律の徹底に全校で共通して取り組むことで、児童が安心して学ぶ環境が整い、確かな学力の向上を支えることができるだろう。

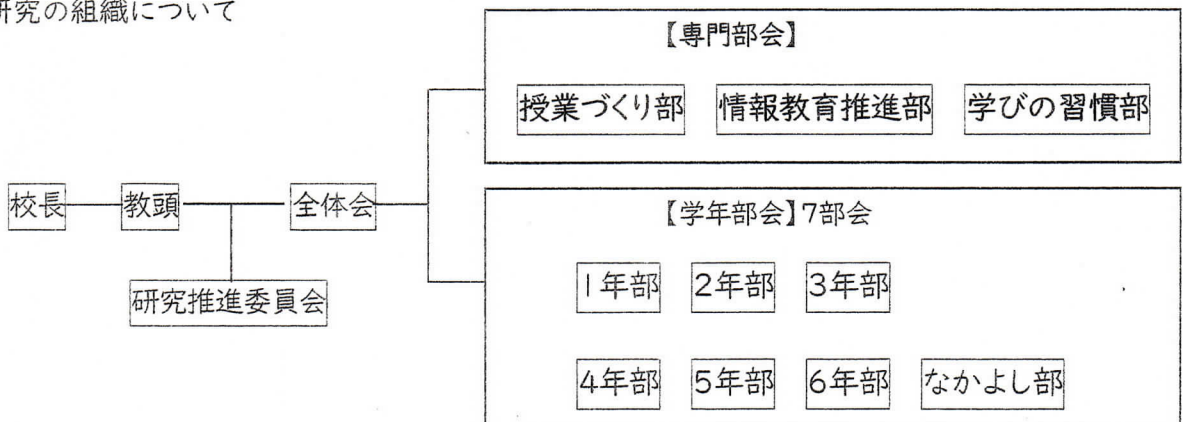
仮説2：児童一人一人が自分の考えをもち、すすんで対話したくなる学習過程を工夫したりICT機器を効果的に活用したりすることで、豊かな対話を通じた深い学びが生まれ確かな学力が育まれるだろう

※対話的な深い学びとは…子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ、深めること

(イ) 研究の方向性

- 落ち着いて学習に向かえるよう、基本的な学習習慣や学習に向かう姿勢（態度）の確立に取り組む。
- 児童一人一人が自分の考えを持ち主体的に学習に参加できるよう、学習への興味・関心を高めるような課題づくりや自分の考えを持つための手立ての工夫に取り組む。
- 「友だちに自分の考えを伝えたい」「友だちの考えを聞いてみたい」と思える課題設定の工夫に取り組む。また、一人一人の発言を肯定的に受け止める支持的風土のある学級づくりをする。
- 適切な言葉で伝える力や聞く力に課題が見られるため、日常的な言葉の指導や学習規律の徹底に全校で共通して取り組む。
- 授業におけるねらいを明確にし、それを達成するための効果的なICT機器の活用を考え、積極的に授業に取り入れていく。
- ソーシャルディスタンスに対応した交流の工夫に取り組む。

3 研究の組織について



令和4年度 校内研修計画予定 高田小学校

回	月	日	学校行事等	研修内容	研修領域	担当者
①	4	7	職員会議	今年度の研修の方向性について	テーマ	安田
②		13	職員会議	研究主題・仮説・年間計画・部会	テーマ	安田
		20	市教科等研			
③		27	職員会議	なかよし学級児童理解	特別支援	垣田
④	5	11		校内人権教育レポート研修	人権	前崎
⑤		18	職員会議	各部会の計画立案	テーマ	各部会
		25	小中合同研修		小中連携	井上
	6	1	小中合同人権研修		人権	前崎
⑥		8		心肺蘇生法・救命救急・エピペン研修		中原
⑦		15		情報教育(スタディサプリ)研修	テーマ	安田
		22	集団宿泊・肥後っ子			
⑧		29		情報教育研修(研修復講)	テーマ	藤田
	7	6	職員会議			
		8	学校訪問C			
⑨		13		ICT活用提案①		
		20	職員会議			
⑩		21		情報教育研修(プログラミング年間計画作成)	テーマ	新宮
⑪	8	22	小中合同研修	特別支援教育研修	特別支援	垣田
⑫		31		全学調分析	学力向上	井上
⑬	9	7		小研①事前研		
⑭		14		小研①事後研		
		21	職員会議			
	10	5	小中合同研修	五中授業研	小中連携	井上
⑮		12		前期振り返り	テーマ	安田
		19	職員会議			
		25	人権Cブロック研			
⑯	11	2		人権教育 法令・施策の理解 構想案作成	人権	前崎
⑰		9		大研①事前研		
		16	職員会議			
		30	小中合同研修	大研①事後研(小中合同研修)	小中連携	井上
	12	7	職員会議			
⑱		14		部会打ち合わせ		
⑲		21		ICT活用提案②		
⑳	1	11		小研②事前研		
		18	職員会議	小研②事後研		
㉑		25		大研②事前研		
	2	1	小中合同研修		小中連携	井上
㉒		8		大研②事後研		
㉓		15		後期・年間振り返り	テーマ	安田
		22	職員会議			
㉔	3	1		人権レポート報告会	人権	前崎
㉕		8		人権レポート報告会、研究の振り返り・まとめと来年度の志向	テーマ	安田

【研究授業について】

- ・今年度は学校訪問(C訪問)があるため、大研は2部会に分け、低(1・2・3年)と高(4・5・6年)の代表1名が研究発表を行う。(小中連携・初任研を兼ねてもよい)
- ・大研の授業者以外は小研を1回行う。(学校訪問での教科が望ましい)小研は(1・2・3・4・5・6・な)の7部会に分け、各部会毎に授業研究会を行う。